閲

特旨ヲ以テ位二級被進　正七位中山信安

叙正六位　正七位中山信安

右謹テ奏ス

明治三十三年五月二十二日

内閣総理大臣侯爵山縣有朋

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内閣記録局 官記 第六 巻

明治卅三年五月廿二日　内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

正七位中山信安ハ舊幕府佐渡奉行但馬トレテ
隠岐島在勤中大政維新ニ際會シ不逞ノ徒隠岐島
ニ出没シ民心洶々ノ折柄德川慶喜恭順ノ意ニ
循ヒ民心ヲ鎮メ朝命ノ降ルヲ待ツテ處置其
宜キヲ得勞績勘シレトモ尋テ戊辰七月ニ至リ
太政官ヨリ佐渡國取締ヲ命セラレ後五年ニ
至リ新治縣參事ニ任シ從六位ニ敘シ翌年新
治縣權令ニ轉シ正六位ニ陞敘シ八年ニ至リ又茨
城縣權令ニ轉シ十年本官ヲ免シ位記ヲ返上
シ十三年ニ至リ長野縣少書記官正七位ニ任
敘シ十四年本官ヲ罷メタルモノニシテ目下大患
ニ罹リ死旦夕ヲ圖ラレサル趣ニ付佐渡在勤
中ノ舊功ヲ録セラレ特ニ當時縣令在職中ノ
位階正六位ニ復セラレ然ルヘシト認ム

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東京府士族中山信安ハ拙者共親戚又ハ知友ニ
有之候處同人儀前ニ旧幕府佐渡奉行組頭トシ
テ佐渡在勤中王政維新ニ際會シ當時東北ノ地
向背未タ定マラス佐渡ノ如キ絶海ノ孤島聲息
通セサル地ニ於テハ殊ニ人心洶洶民其堵ニ安
ンセス不逞ノ徒亦屢渡來動モスレハ大義ヲ誤
マル者アラントスルノ時ニ際シ信安堅ク其主
德川慶喜恭順ノ旨ヲ體シ能ク機宜ヲ制シテ全
島ヲ鎮撫シ以テ朝命ヲ待チ王師下向アルニ迨
ヒテ所管金穀ヲ封シテ之ヲ献シ以テ國帑竒絀
ノ急ヲ救ヒ一兵ヲ勞セス一彈ヲ費サスシテ新
政立ロニ行ハルヽニ至リシ等ノ梗概別冊佐渡
引渡事畧叙述ノ通ニテ同人ノ如キハ實ニ維新
創業ニ功アルモノト思惟仕候然シテ朝廷仁慈
苟クモ君國ニ功アルモノハ幽顯ヲ擇ハス之ヲ
賞シ之ヲ録シ雨露ノ恩枯骨ニ及フノ時ニ於テ
拙者共右中山信安ノ如キ維新創業ニ効アルヲ
知ツテ之ヲ上言セサルハ聖意ニ副フ所以ノモ
ノニアラスト奉存候ニ付茲ニ其知ル所ヲ以テ
敢テ上言仕候今ヤ本人年齒六十有九頃ロ病ニ
罹リ大患死ニ瀕シテ且夕ヲ圖ラレス希クハ其
存生中ニ於テ旧功ニ對シ叙位ノ恩命ニ浴セシ
メラレ度候條何卒深ク御詮議ヲ盡サセラレ候

様仕度因ヲ別冊ヲ具シ此旨上申仕候也

明治三十三年五月十九日

正四位勲三等　都筑馨六

從三位勲二等　長與專齋

從三位勲一等男爵槁本綱常

内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中山信安佐渡引渡事畧

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中山信安佐渡引渡事畧

維新ノ際幕吏ノ其間ニ處スルモ亦難シ能ク其事ヲル所ニ忠ニシテ而シテ亦王室ニ功アル者啻ニ晨星ノミナラス夫ノ任ニ孤島ニ在リテ亂ヲ防キテ以テ民ヲ撫シ順ニ歸シテ以テ國ニ盡シ所有金穀ヲ封シテ之ヲ新政府ニ献シ以テ當時國姉奇絆ノ急ヲ救ヒシ中山信安ノ若キ者ハ顧フニ其跡微ニシテ而シテ其功偉ナリ

中山信安初ノ名ハ修輔幕府旗下ノ士ナリ少キ時漢學ヲ東條琴臺ニ蘭學ヲ緒方洪庵ニ受ク廉明公真頗ル大體ニ達ス元治元年八月佐渡組頭ト為ル是ヨリ先キ尊攘ノ説起リ公武和ヲ欠キ海内騷然メリ修輔書ヲ閣老井上河内守ニ致シテ諸藩ノ俊秀ヲ擧ケ一萬石以上ト為シテ諸侯ノ列ニ加ヘ以テ幕政ニ參與セシメンコトヲ請フ聽カレス任ニ佐渡ニ赴クニ及ヒテ天下ノ勢復少ク為ス可ラサルヲ知リ心竊ニ後ヲ善スル所以ノ者ヲ思フ佐渡ハ金鑛ノ在ル所幕府ノ寶庫ナリ奉行一人組頭二人廣間役二人江戸ヨリ來リテ之ヲ治メ配下ニ地役人ト稱スル者數百人アリ討幕ノ師起ルニ方リテ絶海ノ孤島聲息通セス奉行鈴木大之進（後重嶺ト改ム）組頭竹川龍之輔ヲ江戸ニ遣ハシテ形勢ヲ探ラシム龍之輔一去返ラス蜚語百出人心洶洶メリ尋キテ大之進モ亦職

ヲ棄テヽ江戸ニ還リ廣間役二人モ亦之ニ從ヒ幕吏ノ佐渡ニ在ル者修輔一人ノミ是ニ於テ乎修輔慨然トシテ自ラ島民ノ安危ト金穀ノ保管トヲ以テ任シ乃チ留リテ自ラ奉行ノ事ヲ署理ス

是ヨリ先キ幕兵已ニ敗レテ東ニ走リ佐渡ノ金穀ヲ奪フヲ以テ軍資ト為ント欲シ敗餘ノ浪士相蹟キテ而シテ至リ或ハ恐嚇シ或ハ懇請シ稱シテ金策ト曰フ時ニ前ノ閣老板倉周防小笠原壹岐松平越中等會津藩主松平容保ト與ニ連署ノ書ニ添ユルニ白鞘ノ刀一口ヲ以テ使者樋口某等五人ヲシテ佐渡ニ至リ金穀ヲ調センヿヲ囑セシム修輔書及ヒ刀ヲ還シテ之ヲ諭シテ曰ク將軍既ニ恭順ヲ表ス公等口ヲ忠義ニ藉ルモ其舉ハ適以テ德川氏ノ罪ヲ增スニ足ルノミ金穀ハ國寶ナリ某命ヲ奉シテ國寶ヲ守ル一錢一粒モ不忠ノ徒ニ資スヿ可ラスト此ノ夜五人ノ者修輔ヲ寢室ニ襲フテ迫ルニ軍資ヲ以テス修輔自若トシテ曰ク一死ハ甘ンスル所ナリ金穀ハ私ニ與フヿ可ラスト使者如何トモス可ラスシテ而シテ去ル浪士既ニ之ヲ幕吏ニ獲ス乃チ島中ノ富豪ヲ脅迫シ民其堵ニ安ンセス修輔竊ニ之ヲ憂ヘ因テ民勇三千人ヲ募リテ護鄕兵ト為シ以テ一島ノ治安ヲ謀レリ

修輔既ニ奉行ノ事ヲ署理スノチ地役人二名ヲ
京都ニ派シ善後ノ事宜ヲ太政官ニ請フ太政官
修輔ヲ以テ佐渡縣權判事ト為ス其辭令ニハ丹
羽五位ノ署名アリ後其官ヲ廢セラル會蜚言ヲ
放フ者アリ曰ク修輔鄕兵ヲ募リテ佐渡ニ據ル
ト明治元年十一月越後府ノ權大參事奥平健輔
兵ヲ率ヒテ佐渡ニ至ル修輔禮服ヲ著ケテ恭シ
ク王師ヲ迎フ健輔因テ數條ヲ詰問ス修輔之ヲ
辯スルヿ明白ナリ健輔其他ナキヲ知リ無頼ノ
徒ノ蜚言ヲ放チシ者ヲ捕ヘテ之ヲ誅ス修輔乃
チ金穀ヲ封シテ悉ク健輔ノ手ニ委ス當時正金
三萬五千圓錢拾萬五千貫米壹萬餘石徑五寸ノ
金棒五六本アリ金銀塊ノ庫中ニ
存スル者モ亦尠カラサリシト云健輔其廉明ニ
シテ變ニ達スルヲ賞シ嘆服已マス修輔ヲ以テ
權リニ御雇ト為シ更ニ就官ヲ勸ム修輔之ヲ容
レス佐渡ヲ去ラントス於是健輔金三百兩ヲ贈
テ贐ト為ス修輔曰ク我事畢ルト尋キテ江戸ニ
還レリ島民其德ヲ慕ヒ其去ルヲ悲ミ物ヲ留メ
テ以テ甘棠ニ代エンヿヲ請フ修輔乃チ烏帽子
ヲ與フ民因テ生祠ヲ建ツ
當時健輔ニ從ヒ兵ヲ率ヒテ佐渡ニ至リシ者ヲ
西潟八雲ト曰フ（今ノ極許院名ハ納ノ前ノ判事ナリ）八雲ハ翌年二
月順德帝ノ玉冠ヲ京師ニ奉送スルニ方リ前年

引継ヲラセシ所ノ佐渡金銀ヲ京師ニ護送ス後
千金銀塊ハ大阪ノ造幣司ニ交付セラレシトナリ
幕末各地ノ奉行ハ概皆職ヲ棄テヽ逃走シ家ニ
歸リテ巨萬ノ富ヲ致セシ者モ少カラス佐渡ハ
天下ノ寶庫ナリ汚吏ヲシテ此ニ居ラシメハ蹂
踐狼藉知ル可キノミ而カモ新政府カ國帑竒絀
ノ際ニ當リテ莫大ノ金銀ヲ此ニ獲シ所以ノ者
ハ修輔大體ニ通シ權變ニ達シテ以テ職責ヲ全
クセシニ因レリ修輔ノ如キ者ハ啻ニ德川氏ノ
良吏タルノミナラス亦王室ノ功臣ト謂フヘシ

前書中山信安佐渡引渡事畧記載ニ事項ハ訥
ニ於テ佐渡在職中詳知致居其確實ナルコトヲ保
證仕候也

明治三十三年五月十八日　從四位勲三等西潟訥

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

49

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

静岡縣士族　中山信安

明治元年戊辰七月三日
一御扈ヲ以テ當分佐渡國取締被仰付
候事
同二年巳巳二月十三日
一御扈ヲ以テ佐渡取締被仰付置候處被免候
事
同五年壬申五月三十日
一任新治縣參事
同年十一月十二日
一叙従六位
同六年癸酉十二月廿七日
一任新治縣權令
同七年甲戌二月十八日
一叙正六位
同八年乙亥五月七日
一廃新治縣
同日
一任茨城縣權令
同十年丁丑一月十二日
一免本官
但位記返上ノ事
同十三年庚辰五月十二日

内閣

一任長野縣少書記官
同年六月十九日
一叙正七位
同十四年辛巳一月十八日
一依願免本官

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp